

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成果報告書

平成27年10月7日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 総合生存学館

職 名 准教授

氏 名 趙 亮

助成の種類	平成27年度・研究成果公開支援・国際会議開催助成		
事業内容	The 18th Japan Conference on Discrete and Computational Geometry and Graphs (第18回離散計算幾何とグラフ 日本会議)		
開催期間	平成27年9月14日～平成27年9月16日		
開催場所	京都大学百周年時計台記念館		
参加者	総数 121名	内訳 国内64名 海外57名	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )		
会計報告	事業に要した経費総額	3,748,966 円	
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 東京理科大学, ELC多面的アプローチの統合による計算限界解明, JST CRESTビッグデータ時代に向けた革新的アルゴリズム基盤	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	会場・会議費	816,480	816,480
	旅費・交通費	755,000	
	印刷・製本費	93,960	
	通信・運搬費	26,910	
謝金・人件費	302,000	183,520	
懇親会	1,254,473		
消耗品	89,453		
その他	410,690		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 大変助かりました。ありがとうございました。 近所の郵便局では振込口座を開設できず焦っていましたが、頂いたアドバイス通り、銀行で開設できました。 要望ではありませんが、財団のロゴがあるとなおうれしいです。ウェブページ等で掲載するときに便利なので。		

平成27年度 京都大学教育研究振興財団 国際会議開催助成

「The 18th Japan Conference on Discrete and Computational Geometry and Graphs (第18回離散計算幾何とグラフ 日本会議)」成果概要

京都大学総合生存学館 趙 亮

日本における離散幾何や計算幾何およびグラフに関する国際会議である **Japan Conference on Discrete and Computational Geometry and Graphs** の第18回目にあたる本会議は、2015年9月14日から16日までの3日間にわたり京都大学百周年時計台記念館にて開催された。本会議は、日本での当該分野における研究者に対する活動基盤を与え、その発展を中心的に支えてきたイベントであり、分野をリードする著名な研究者やこれからの活躍が期待される若手研究者が国内外を問わず幅広く集まり、3日間にわたり先端の研究成果報告と活発な議論が行われた。

参加者数は、日本人64名、外国人57名の合計121名で、過去の同会議と同等の規模となった。参加者には **Janos Pach** 氏 (ローザンヌ連邦工科大学)、**John Iacono** 氏 (ニューヨーク大学)、**David Rappaport** 氏 (クイーンズ大学)、**茨木俊秀** 氏 (京都情報大学院学長、京都大学名誉教授)、**徳山豪** 氏 (東北大学) の5名の招待講演者に加えて、この国際会議の創設者の一人である数学者・**秋山仁** 氏 (東京理科大学) を筆頭に、**杉原厚吉** 氏 (明治大学)、**Jorge Urrutia** 氏 (メキシコ国立大学)、**Prosenjit Bose** 氏 (カールトン大学)、**Erik Demaine** 氏 (マサチューセッツ工科大学)、**Stefan Langerman** 氏 (ブリュッセル自由大学) など世界の最前線に立つ研究者が多数参加した。

会議は特別企画セッションと一般セッションの二部構成をとり、一般セッションの部では多数の投稿論文の中から、各論文3名以上の査読委員による厳しい査読と15名のプログラム委員の議論によって選定された66件の最新の研究成果が発表された。特別企画は2件あり、一つはこの分野に多大な貢献を残し本年4月に京都大学を退職した**加藤直樹** 氏 (関西学院大学) の異動を記念するものであり、もう一つはこれも当該分野に多大な貢献を残して昨年亡くなった **Ferran Hurtato** 氏を追悼するものであり、ともに関係者を多数招き盛大に実施された。

このように3日間におよんだ本会議は、計算幾何や離散幾何およびグラフ理論に対する数理理論とアルゴリズム設計の話題を中心としながらも、情報学・応用数学における周辺分野からの招待講演など交えることで、当該分野の近年の展開の広がりを実感出来る非常に内容の濃いものとなった。また、日本で誕生したこの国際会議ではあるが、会議期間中には随所で日本や海外の若手研究者どうしが交流を図る場面も数多く見られ、当該分野のさらなる発展に寄与する会議となったことを確信する。なお、

会議のより詳細な内容および会議風景等は以下の会議ウェブサイトにおいて閲覧可能である．末尾に会議の集合写真を添付する．

<http://www.kurims.kyoto-u.ac.jp/~takazawa/JCDCGG2015/>

